

もう抱え込まないで
—昇降式座位保持装置+ベルトコンベア—

東京会場_Aチーム



通常の発達



子どもの時は床で活動することがほとんど
➡ 成長しても床での生活を続ける



床

頻回…



椅子

ニーズ：問題点

正常発達：成長とともに座位・立位を獲得



床から抱える介護の継続で腰痛に！
落としてしまうことへの不安！

重症心身障害児：体は成長するが、座位や立位が取れない

ニーズの疫学

- ・在宅生活をしている重症心身障害児の調査では道具を使わずに移乗介助を行っている割合は

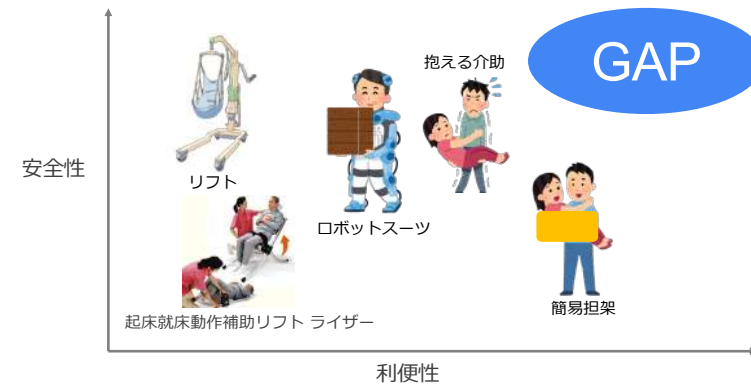
73.9% リフト導入率は低い…

- ・高齢者施設での調査
リフト導入率10%未満の施設 腰痛発生率47.9%~85.0%
導入率が25%以上の施設 22.8%~29.2%

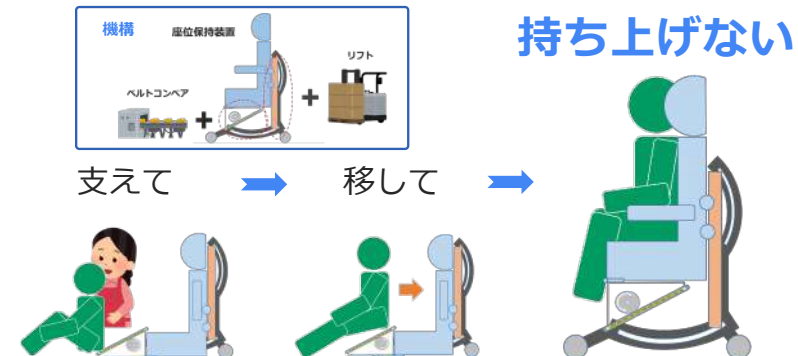
その差は1.64~3.73倍

村田 伸, 大山 美智江, 坂田 栄二, 介護職員の腰痛発生率と移乗介助用福祉用具の導入割合との関連, ヘルスプロモーション理学療法研究, 2021, 11 巻, 3 号, p. 117-121

既存のソリューション



コンセプト



既存ソリューションとの違い



コンセプトを支持するデータ

座位保持装置の座面は厚みがあるので、下まで下がっても持ち上げる必要がある。これなら腰の負担は減るかもしれない！



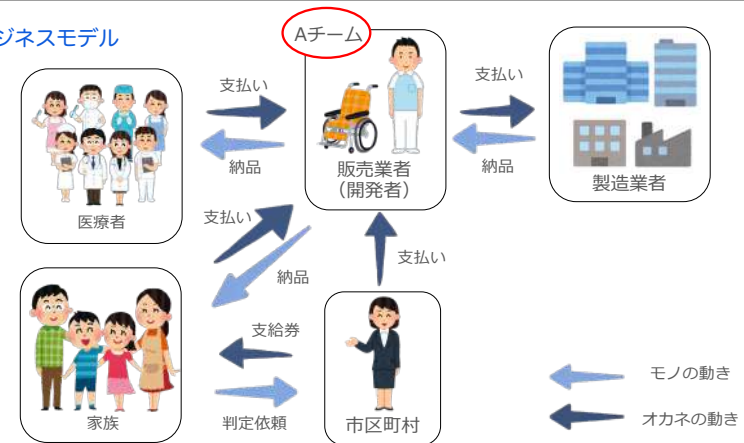
脳性麻痺のお子様とご家族

現状は力のある男性は持ち上げられるが、女性は大変。これなら男性でも女性でも一人で介助できそう！

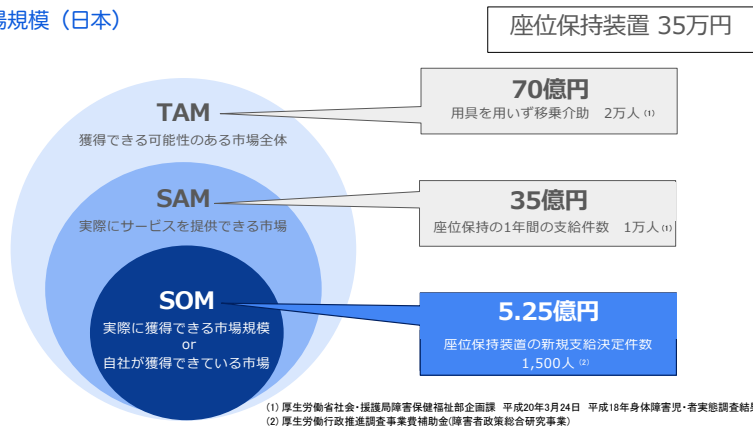


療育センタースタッフ

ビジネスモデル



市場規模 (日本)



ロードマップ



チームメンバー



近藤 タ騎 (PT)
国立精神・神経医療研究センター病院



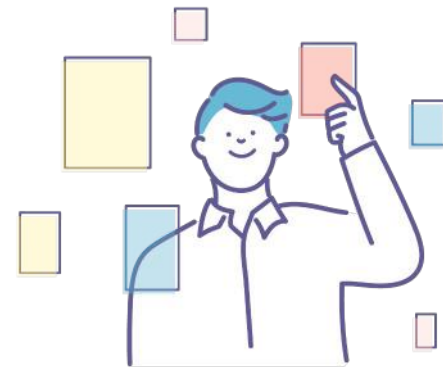
田戸 寛徳 (エンジニア)
アルケア株式会社



田口 恵梨 (ST)
千葉県東葛飾障害者相談センター



水口 寛子 (OT)
国立国際医療研究センター



抱え込まない選択肢を！